

緩和の閑話

緩和ケアチームからお便りを差し上げます。

大いに利用して下さい。

今回は、「患者さんの希望を知り、寄り添う関わり方」についてお話しします。

患者さんの希望を知ると言ってもなかなか難しいと感じたことはありませんか。患者さんに「今の希望は何ですか？」と単刀直入に尋ねても、帰って来る答えは、「がんと言われているのに希望なんかあるわけないだろう・・・」と患者さんやご家族の怒りや苦痛を助長させるだけになってしまったことはありませんか。

患者さんの希望を聴き出すポイント

患者さんとの関係を確立する

何気ない、日々のケア中に大事なことを伝えたいときがあるかもしれません。そんな時、突然のPHSに対応している医療者をみて、話をしようかと躊躇してしまうこともあるでしょう。「この人は話やすい人かな。親身になってくれるかな」という思いをもって私達の仕事をみえています。

患者さんが、こちらに何か話かけてきたときが、不安や希望を聴き出す良い機会なのです。私たちスタッフがタイミングよく、ゆっくり話が聴ける状態かどうかはわかりません。もし、話しかけられても、すぐ対応できず、検査や手術の患者さんのケアの予定が入っていたら、そのことを相手に伝え、「〇時頃にもう一度お話を伺ってもいいですか？」と早口にならぬよう聞いてみましょう。

約束ができれば、必ず訪室し、話の内容はカルテに必ず記録し、スタッフみんなで共有しましょう。またスタッフで情報を共有していることを患者さんに伝えましょう。医療者がチームとなり、その患者さんの希望が叶うように働きかけていきましょう。

希望と言ってもさまざまです。

A「夜はゆっくり痛みを感じないで眠りたい」と言うような、身体症状のことや、

B「3ヶ月後の娘の結婚式に是非出席したい」など家族の人生イベントに参加し思い出を作る、自分の人生を振り返ることなど、それぞれ、いろいろな希望があることでしょう。

Aの希望であれば、身体症状のアセスメント、薬剤調整など考え主治医やスタッフとカンファレンスし、眠れるようになることは可能と考えます。

Bについては、本人の症状と気持ちの確認、ご家族との話し合い、可能にするためにはどんな準備が必要かのアドバイスなど、一緒の目標に向かっていろいろ調整していくことが可能です。例えば、ソーシャルワーカーと一緒に話しを聴いた方が良いこともあるでしょう。私の立場でこんなことしていいのだろうか？と悩むことも多いと思いますが、先輩や上司によく相談してみてください。きっと何か希望を叶える知恵を授けてくれることでしょう。

また、患者さんの希望はその時々で変化していきます。今日を生きられる希望であったり、短時間でも家族と穏やかな時間を過ごせることであったりするかもしれません。患者さんにとって、治る希望を持っていることや最後までがん闘うことが重要である場合もあります。私たちは、その都度、傍らでお話しを聴いていきましょう。このようにたとえ短い時間でも話を聴く時間を作り、腰を落ち着けて聴くことが、関係を作っていく重要な事だと思います。

今回は、患者さんとの関係を確立するために、その患者さんに関心を抱き、コミュニケーションを円滑に行い、希望に寄り添うことを簡単にお話させていただきました。

